

集落ぐるみの多面的機能持続発揮と担い手の育成

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	京都府京丹後市 <small>くみはまちようきのこう</small> 久美浜 町 佐野甲				
協定面積 23.7ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地	
	水稲、黒大豆				
交付金額 306万円	個人配分			50.1%	
	共同取組活動 (49.9%)	役員報酬			4.6%
		道・水路管理費			6.6%
		農地管理費			2.0%
		鳥獣被害防止対策費			2.6%
		多面的機能増進活動費			3.3%
		無人ヘリ防除委託費			15.6%
		その他			1.0%
積立			14.2%		
協定参加者	農業者 32人、水利組合 (1組織)、農業生産法人(2組織)				

2. 取組に至る経過

当集落では、イノシシ等の獣害による水稲被害が増加し、個々での対応が難しくなっていたため、地域内の非農家を含めた多様な団体の代表者による「中山間推進委員会」の設置を契機に話し合いを重ね、全区民へのアンケート等も実施し、「～かけがえのない私たちのふるさとを創る～」と掲げた成果集を作成し、集落の意識を高めるとともに活動方を共有し、非農家を含めた集落全体での取組を図ることとした。

3. 取組の内容

有害鳥獣対策としてレンタカウによる放牧に取り組むこととし、このレンタカウを利用し、地元の小学校等を対象に、レンタカウの目的や牛の生態等についての学習会を併せて開催している。

また、間伐材除去などの周辺林地の環境整備では、企業ボランティアを受入れ協働で作業を行っている。

さらに、平成18年から地元の小学校と連携して芋植えや、秋には収穫祭を行うなど多面的機能の発揮にも取り組んでいる。

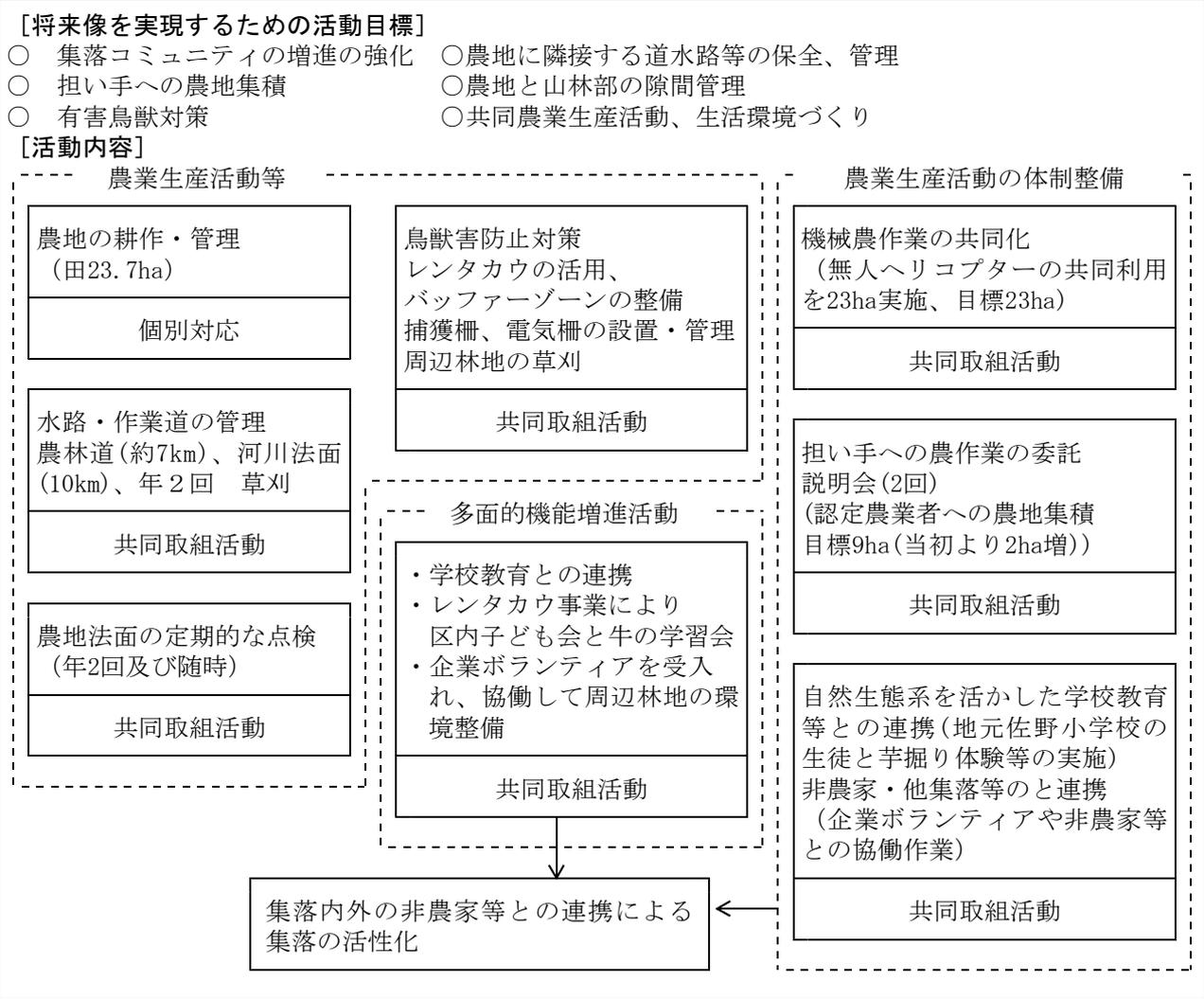


レンタカウの活用による有害鳥獣対策



企業ボランティアと協働で周辺林地の環境管理

【集落の将来像】「かけがえのない私たちのふるさとを創る」
 ○ めざすべき方向 ① ふるさとの基盤を守る。創る。② ふるさとの基盤を活かす。
 ③ 潤いと安らぎのある。活気あるふるさと。



4. 取組による変化と今後の課題等

非農家も含めた集落内の横断組織である中山間推進委員会が中心となり、集落全体の取組としての意識を共有し、子供や集落外住民との交流により集落の活性化が促された。また、自集落を客観的に認識をする機会となり、集落における人材育成や地域づくりに繋げることができた。今後は集落の高齢化が進行するなかで、認定農業者への農地集積を推進するとともに、非農家も含めた集落全体での農業生産活動を維持発展させていく。

【平成20年度までの主な成果】

- 担い手への農地集積 (当初7ha 目標9ha H20実績8.9ha)
- 機械・農作業の共同化 (無人ヘリコプター共同防除) (当初18ha 目標23ha H20実績23ha)
- 有害鳥獣捕獲柵の製作と導入による設置・レンタルカウの実施 (集落内2ヶ所)
- 学校教育との連携 (収穫祭等への小学生の50人参加)
- 企業ボランティアの受け入れ人数 (当初0人 H20実績35人)